

炊き立ての香り

城ノ内中学校

二年

大内 苗

夕方になると、わたしの家のキッチンから
ふわっ とごはんの香りがただよってきます。
炊きたての白いごはんの、少し甘くてあたた
かいにおい。その香りをかぐと、ああ、今
日も一日が終るんだな、と思っ て、心がふ
つ とゆるむ気がします。

わたしの家では、毎日の食卓に必ず白いご
はんがあります。からあげやハンバーグの日

もあれば、魚や煮ものの日もあるけれど、ど
んなおかずにも白いごはんがびっ たり合いま
す。たまにパンやパスタの日もあるけれど、
やっぱりごはんを食べた、って感じがする
のは、お米を食べたときです。

ごはんの味もそのもの好きだけど、一番好
きなのは、家族でそろって食べる夕ごはんの
時間です。お母さんが、今日のごはん、うま
く炊けたかな？、といいながら食卓にお茶碗
を並べ、お父さんが、今日の日はあつと、毛子

モチしてるな。なんて言って、それにお母さん
が、うれしそうに笑う。そんな何気ない会話が、
ごはんといっしょにあたたかく流れてい
く感じが大好きです。

日曜日の朝、キッチンから水の音が聞こえ
ると、「あ、ごはん炊いてる」とすぐにわか
ります。お米をとぐ音。静かだけれども、
心安びる音です。お母さんにコップを聞くと
「ゴシゴシ」じゃなくて、やさしくなでるの
と言われました。白くにごった水の中でキラ

キラ光るお米を見ると、宝石みたいできれい
だなと思います。

学校の給食委員で、お米を食べる人が少な
くなっているのを聞き、朝ごはん
をパンやシリアルにする家庭が少なくなっ
たり、外食でもパスタやラーメンなどが人
気だったりするからだろうです。わたしはそれ
を聞いて少しびくりました。わたしの家
では朝も夜もごはんが出るのが当たり前だっ
たので、ごはん離れ。なんて言葉があること

にもおどろきました。

でも、よく思い出してみると、友達と外で
食えるときにお米料理を選ぶことってたしか
に少ないかもしれません。だから、あらため
て「ごはん」っていいな」と思いやりなりま
した。あ、たかくて、ほ」として、家族をつ
なげてくれるような存在。それがごはんなん
だと、わたしは感じます。

将来、わたしが大人になつて家族をもつた
ら、ちゃんとお米を炊いて、でるだけ手づ

くりのごはんを出したいなと思います。子ど
もたちに「この家のおい」な人が落ち着く
ね」と言われたらうれいす。これは、
「ごはんの香りがえう思わせてくれてるん
じやないかなと思うからです。」

この前、お母さんが買い物で帰りが遅くな
る目があった。今日「ごはん」お願いね」と
言われました。使ったことがある炊飯器です
が、久しぶりに使うのでなんだかし緊張しま
した。水の量を間違えないように慎重に測っ

て、タイマーをセットして、なんとか無事に
炊き上がりました。
炊飯器のふたを開けた瞬間、あのいつもの
香りがふわっと広がって、すごくうれしかっ
たのを覚えています。家族に「おいこいね」
と言ってもらえて、なんだか自分も少しだけ
家の味を作れた気がしました。その日から、
ご飯を炊くことがちょっと楽しくなりました。
これから、日々のご飯と向き合いながら
バまで満たされる食卓を大切にしていきたい
と思います。